

# こんにちは ブレインテックです

## 第71回 株式会社日本デザインセンター ライブラリー 2013年2月

今回は、東京都中央区銀座4丁目の株式会社日本デザインセンターにお邪魔しました。むき出しの天井に白を基調にした内装のビルには、2012年春に移転されました。受付のすぐ隣にあるライブラリーの中を、広報室情報資料グループの関本香様にご案内いただきました。

—本日はよろしくお願ひいたします。まずは貴社とライブラリーについて教えてください。

株式会社日本デザインセンターは、1960年の創業です。創業時の中心メンバーだった原弘氏は「必ず将来デザインや広告が重要視される時代が来る」と考え、外国の資料も集めておく必要があると考えたようです。このため、創業当時より社内にライブラリー（当時は図書室）がありました。1ドル360円の時代の、当時高価だった外国の資料も多く収集されています。この時代から1企業の中にしっかりしたライブラリーを併設していたところは、先見の明があったのではないかと思います。

このようにして集められた古い本や貴重な本も、このライブラリーでは社員なら自由に閲覧できることが特徴です。ライブラリーには、現在も多くのクリエイターが来室します。



—ライブラリーの中央には直径6mもある丸いテーブル、壁一面の書棚など、さすがデザイン会社！と思わせる内装ですね。

耐震問題で、2012年春に現在のビルに引っ越してきました。今までのライブラリーは狭いながらも移動書架もあり機能的な部屋だったのですが、現在はデザインを前面に打ち出した部屋となっています。開館時間帯は、受付とライブラリーとの間にある仕切り扉を開け放つため、フロアがひと続きで、遠くからもライブラリーを見渡せるような構造です。このため「見せる」ことに重きを置いた部屋だと考え、社員にも面白そうだから覗いてみようと思わせるような部屋を目指しています。また受付からよく見えるために、弊社へ来社されたお客様が社員とともに来室されることもあります。



弊社ではクライアント企業の機密情報を扱っており、引っ越し後のセキュリティはこれまでよりもさらに厳しくなりました。社員であっても関係しないフロアには入りづらいものです。社員同士のコミュニケーションは直接会うよりも、メールや社内イントラ、社内SNSを使っての情報交換が多くなっています。このため、ライブラリーでも、新着資料が届いた際にはWebOPACの新着情報に頼るだけではなく、社内イントラサイトに詳しい資料情報をアップしたり、ライブラリーの情報をSNSでつぶやいたりして、こちらで行っていることをアピールしたりしています。大円卓と本を中心にライブラリーが社員同士のコミュニケーションの場になればとも考えているので、大円卓を使ってパーティーなども行います。

—カウンターも閲覧室内には設置されていないのですね。無線LANと「情報館」のインストールされたノートパソコンの組み合わせで、定位置ではなく移動しながら作業されているところなど斬新に感じます。

デザイン面に重点が置かれた部屋なので、実際に作業する者としては使い勝手が良いと感じる面もあるのですが、制約されていたり使いにくい点があっても、デザインを損なわないように改善点を見つけ、工夫しながら少しずつ使いやすい部屋にしていきたいと考えています。

閲覧室裏側の作業用スペースに、ICタグリーダー等が繋がっている端末があります。大量の資料を貸し出す際などにはそちらを使用しています。資料にはバーコードも貼っているので、閲覧室での入力作業中の対応にはノートパソコンとバーコードリーダーでの対応ができるので便利です。



——**関本様はプロデューサーを経てライブラリーへ異動されたとお聞きしましたが、ライブラリー担当になっていかがですか？**

私は前職は書店でアート系の本のバイヤーをしていました。日本デザインセンターに入社後のプロデューサー時代にも、ライブラリーにはよく通っていましたので、育休復帰を機に興味のあったこの部署に転部希望を出しました。これまで利用者の立場でしたので、利用者の動きや利用者から求められている資料なども大体わかるので、利用者への利便性をまず考え、一般的な図書館のルールとは異なる運用になっている部分もあると思います。

月に1回、選書作業があります。私のほうで期日までに荒選書をして、弊社の歴代代表のクリエイター（原弘、永井一正、現在は原研哉）が選書をしております。出入りの書店からの購入が主だったものを、デザイン関係に強い、数社の書店と資料を直接取引するようにし、できるだけ外に出て自分の目で探し、新しい本やクリエイターのインスピレーションのもとになりそうな資料・情報を利用者へ提供できるように、いろいろと試行しています。



——**中央の大きなテーブルには10冊の本が置かれていますが、こちらは何の展示をされているのですか？**

こちらは弊社に所属しているクリエイターが感銘を受けた資料を、各自10冊選択してもらい、1人のセレクト分を1ヶ月間展示するという「ライブラリーのおすすめ本をシェアするプロジェクト」です。選択した本にはデザイナーからのコメントを手書きで記入したしおりを挟んであります。しおりの紐が長いのは、展示期間である1ヶ月が過ぎて書棚に戻した後も、この紐が出ていることで以前展示された本ということが離れたところからもわかるように、と計算しています。新入社員などにもわかりやすく、多くの人を選んでくれた本は、背表紙がしおりの紐で隠れるくらい続けたいと思っています。このプロジェクトは利用者からのアイデアが発端で始まりました。各クリエイターの視点での資料選択や熱の入った手書きのコメントなどが興味深いようで、注目を集めています。



以前の図書室では、ブックジャケットは外していたのですが、やはりデザインも内容の一部であり、表紙も含めて全体を「作品および資料」とみなしているため、最近はブックジャケットをつけたまま配架しています。装備には、以前ブレインテックより紹介のあった「コリブリ」を活用しています。

——**「情報館」をお使いいただくきっかけはどのようなことでしたか？**

「情報館」導入前に使用していたシステムは、なかなかサポートが受けられず、社内にもシステムについてわかるものがいなかったので、異動直後はとても大変な思いをしました。このために、サポート部が独立してあること、検索が簡単、自分たちでカスタマイズができること、を重要視して「情報館」を選択しました。導入前にはユーザー見学にも行ってきました。

先程の「コリブリ」のような情報を提供してもらったり、運用について提案を頂いたり、ユーザー研究会などの開催で他のライブラリーの方と繋がれるような機会を与えてもらえることは、企業内のライブラリーとしてはとてもありがたいと思っています。これからもよろしくお願いたします。



——**こちらこそよろしくお願いたします。新しいことや利用者へ便利なことなどを即実行されるフットワークの良さが印象的でした。ますますのご発展をお祈り申し上げます。お忙しい中、ありがとうございました。**

\*\*\*\*\*

**株式会社日本デザインセンター ライブラリー**

〒104-0061 東京都中央区銀座4-9-13

TEL 03-6264-0301 (代)

http://www.ndc.co.jp

Facebook <https://www.facebook.com/NDCcojp>

